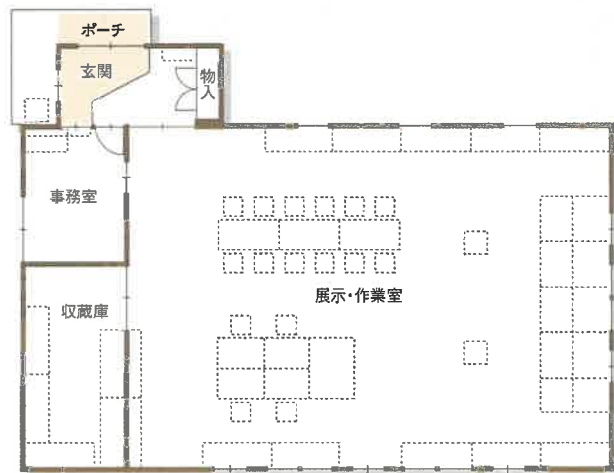


施設案内図



南箕輪村とその歴史

南箕輪村は長野県南部の伊那盆地北部に広く開けた天竜川右岸に位置し、西に中央アルプス、東に南アルプスを望む水と緑の豊かな自然に囲まれています。

村内には神子柴遺跡をはじめとする50余の遺跡が確認され、原始から古代の人々のくらしがうかがわれます。

中世から近世は農村としてその時代の権力者の支配下にありました。近代に入ると、久保村・北殿村・南殿村・田畑村・神子柴村・大泉村が合併して南箕輪村が誕生しました。また、養蚕が盛んになるとともに農耕地の開墾がすすめられました。

現在では塩ノ井・沢尻・北原・大芝・南原・中込の6つの区が加わった12の行政区があり、工業団地が整備されるなどの地域開発を背景に、人口が1万3千人を超える村として発展しています。

見学希望の方はあらかじめ教育委員会事務局へ連絡してください。

開 館 午前9時～午後4時30分

入 館 料 無料



南箕輪村郷土館

長野県上伊那郡南箕輪村4805番地

南箕輪村教育委員会

〒399-4592

長野県上伊那郡南箕輪村4840番地1

TEL0265-76-7007 FAX0265-76-5568

南箕輪村郷土館

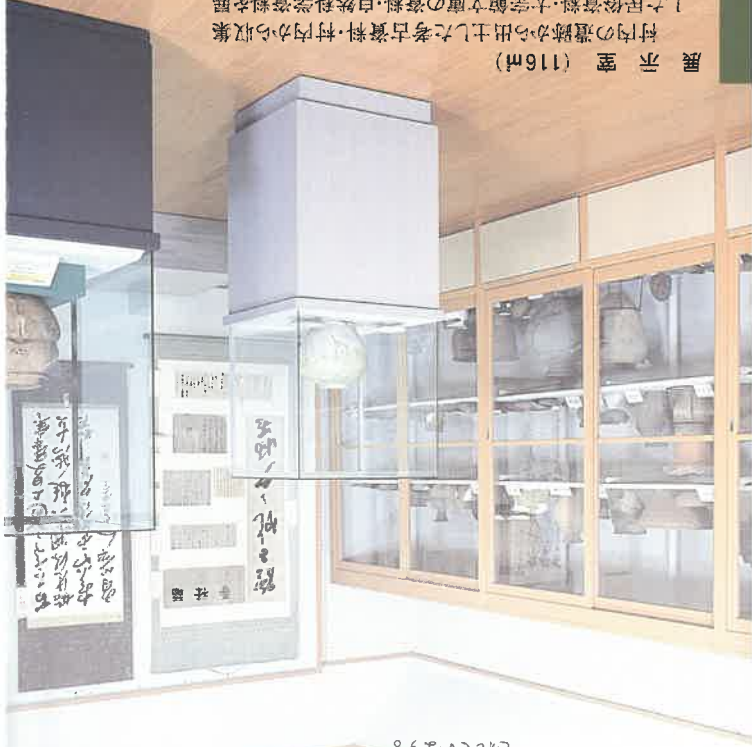


Information

(北殿エドヒガン桜)

施設概要

南箕輪村郷土館は昭和46年に中学校の木造校舎の一部を移築して開館し、郷土学習の拠点となりました。その後、平成14年に老朽化と不便さを解消するため改修を行い、新しい郷土館には村内の遺跡から出土した土器や石器等の他、古文書等の歴史資料や民具を中心とした民俗資料、自然科学資料等が保管、展示されています。



展示室 (116㎡)
村内の遺跡から出土した考古資料・村内から収集した民俗資料・大宗館文庫の資料・自然科学資料を展示しているほか、展示室内で郷土学習や作業ができるようになっています。

資料収蔵庫 (15㎡)

村内に残る古文書類を収蔵・保管しています。

事務室 (10㎡)

資料収蔵庫 (126㎡)

村内より収集した、民俗資料が収蔵されています。

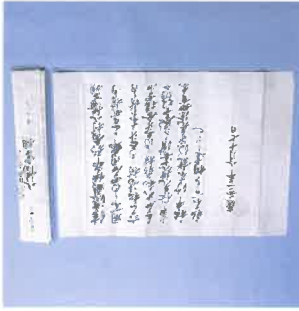
展示品



▲有孔罌付土器(久保上ノ平遺跡出土)

この有孔罌付土器は縄文時代中期のもので、土器の正面には人体をあらわした文様が付けられています。この土器の人体文様は両腕の肘から先が欠損していますが、不思議なつくりの顔や立体的に作られた体の文様は全国的にみてもめずらしいものです。

▲殿村八幡宮朱印状(シリアカ)



殿村八幡宮(南殿)に保管されている朱印状は全部で9通あります。これらの朱印状は江戸幕府より出されたもので、本来なら明治政府により回収される筈ですが、殿村八幡宮には本物が残っています。郷土館で展示してあるのは慶安2年(1649)に出された朱印状のシリアカです。



▲大宗館文庫資料(一部)

当資料は南殿の有賀家で所蔵していた4500点余の古文書・書画等で平成14年に村へ寄贈されました。

資料の内容は江戸初期から明治にかけての古文書や和書のほか、著名人の書画や浮世絵があります。また、島崎藤村の『夜明け前』の関係資料も含まれています。



▲灰釉陶器短頸壺、皿(宮ノ上遺跡出土)

この壺は平安時代に骨壺として使われていたもので、つくりの特徴から東濃産のものとみられます。発掘した時には1人分の焼骨が納められていました。

保存状態が良かったことから、破損箇所が全くない完形品で美術工芸品としても資料価値の高いものです。



▲鹿頭行列 鹿頭

大泉区に古くから伝わる鹿頭祭りは別名「鹿踊り」「鹿頭祭」ともいわれています。この祭りは箕輪郷の惣社である南宮大明神へ鹿を奉納するもので、今から約440年前の永禄元年に日照りで苦しんでいた民の切実な願いを祭りにから始めたといわれています。

当初、鹿頭を奉納する村は箕輪郷のなかで縁起の良い字がくつ5つの村が選ばれましたが、今では箕輪町の福手と南箕輪村の大泉が中心になって隔年で奉納をおこなっています。祭は毎年7月の第3日曜日におこなわれます。

郷土の歴史・文化と自然にふれよう